

本件の対外公表は
10月23日8時50分

2019年10月23日
日本銀行金融機構局

主要銀行貸出動向アンケート調査 <2019/10月>

回答期間：2019年9月10日～2019年10月10日
調査対象数：50行庫（詳細は最終頁の注1を参照）

I. 資金需要動向（質問1.～6.）

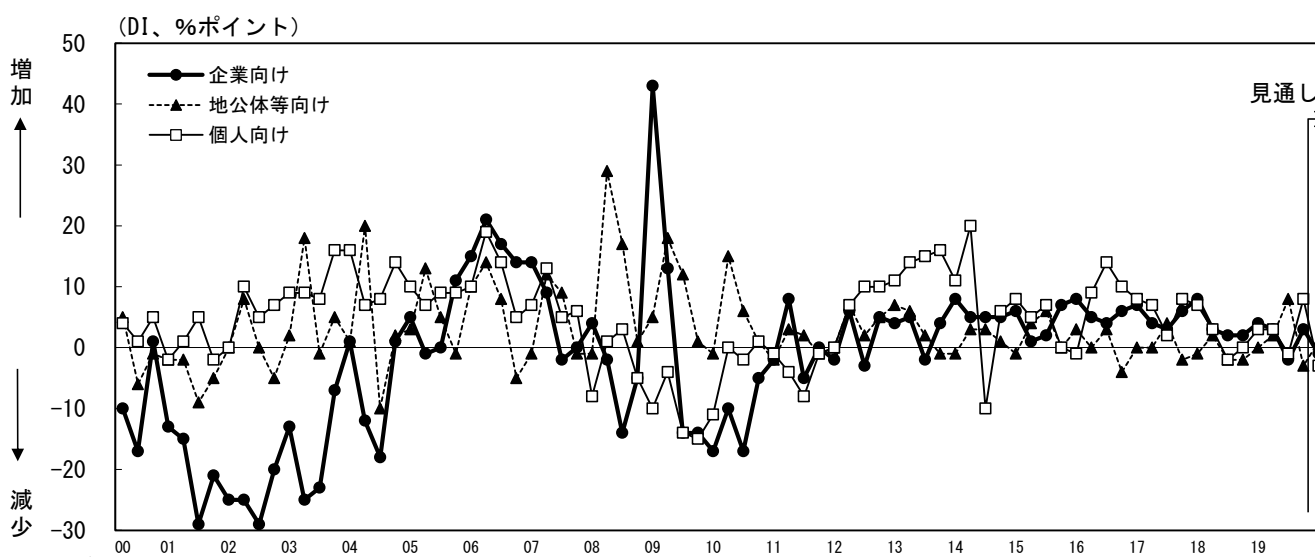
1. 過去3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化したか。

	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
企業向け	3	-2
地公体等向け	-3	8
個人向け	8	-1

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	1	48	0	0	50
2%	2%	96%	0%	0%	
0	0	47	3	0	50
0%	0%	94%	6%	0%	
1	6	43	0	0	50
2%	12%	86%	0%	0%	

* 資金需要判断D.I. = (「増加」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや増加」とした回答金融機関構成比) - (「減少」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや減少」とした回答金融機関構成比)。以下、質問2.、質問4.、質問6.において同じ。

主体別資金需要判断



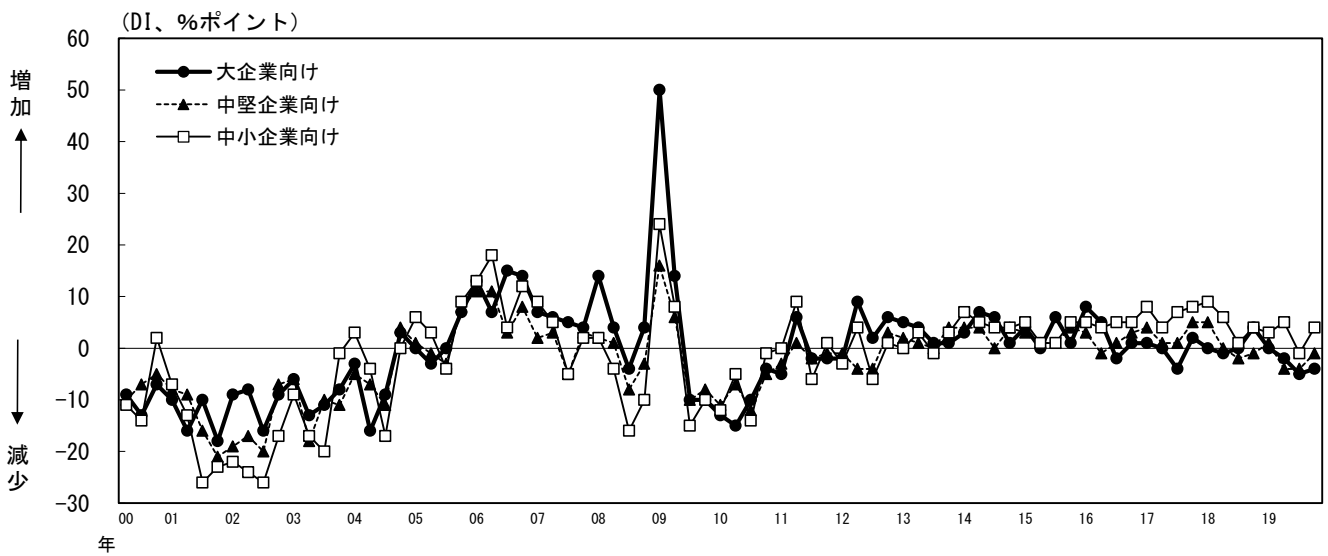
* 見通しは、質問6.を参照。

2. 「企業向け」のうち、規模別および業種別にみた資金需要の変化。

<全体>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-4	-5
中堅企業向け	-1	-4
中小企業向け	4	-1

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	2	41	6	0	49
0%	4%	84%	12%	0%	
0	1	47	2	0	50
0%	2%	94%	4%	0%	
1	2	47	0	0	50
2%	4%	94%	0%	0%	

企業規模別資金需要判断<全体>



<製造業>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-1	-4
中堅企業向け	-1	-7
中小企業向け	3	-7

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	2	42	3	1	49
2%	4%	86%	6%	2%	
3	0	43	1	3	50
6%	0%	86%	2%	6%	
1	2	46	1	0	50
2%	4%	92%	2%	0%	

<非製造業>	資金需要判断 D.I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-1	-3
中堅企業向け	0	-1
中小企業向け	2	3

回答金融機関数 (下段は構成比)					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	2	44	3	0	49
0%	4%	90%	6%	0%	
0	1	48	1	0	50
0%	2%	96%	2%	0%	
0	3	46	1	0	50
0%	6%	92%	2%	0%	

<建設・不動産>	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	6	-5
中堅企業向け	7	2
中小企業向け	2	-2

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
2	4	41	2	0	49
4%	8%	84%	4%	0%	
4	0	45	1	0	50
8%	0%	90%	2%	0%	
1	2	45	2	0	50
2%	4%	90%	4%	0%	

<金融・保険>	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-3	-4
中堅企業向け	0	0
中小企業向け	-1	3

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	0	46	3	0	49
0%	0%	94%	6%	0%	
0	0	50	0	0	50
0%	0%	100%	0%	0%	
1	1	45	2	1	50
2%	2%	90%	4%	2%	

<その他非製造業>	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	-1	0
中堅企業向け	-1	-1
中小企業向け	2	1

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	3	42	4	0	49
0%	6%	86%	8%	0%	
0	1	47	2	0	50
0%	2%	94%	4%	0%	
0	2	48	0	0	50
0%	4%	96%	0%	0%	

3. a. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か（規模別にお答え下さい）。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の増加	1.50	1.00	1.00
②設備投資の拡大	1.00	2.00	1.67
③資金繰りの悪化	1.00	1.00	1.33
④手許資金の積み増し	1.50	1.00	1.67
⑤他の調達手段からのシフト	1.00	1.00	1.33
⑥貸出金利の低下	1.00	1.00	1.33
⑦その他	1.50	1.00	1.00
回答数	2	1	3

* 「平均値」は、「判断スケール」をウェイトとし、ウェイト×回答金融機関構成比を合計したもの（加重平均値）。以下、質問3. b.、質問5.、質問8.において同じ。

3. b. 質問2.において、全体の資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か（規模別にお答え下さい）。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
①売上の減少	1.17	1.00	n. a.
②設備投資の減少	1.50	1.50	n. a.
③資金繰りの好転	1.67	1.50	n. a.
④手許資金の取崩し	1.83	1.00	n. a.
⑤他の調達手段へのシフト	1.67	2.00	n. a.
⑥貸出金利の上昇	1.00	1.00	n. a.
⑦その他	1.33	1.00	n. a.
回答数	6	2	0

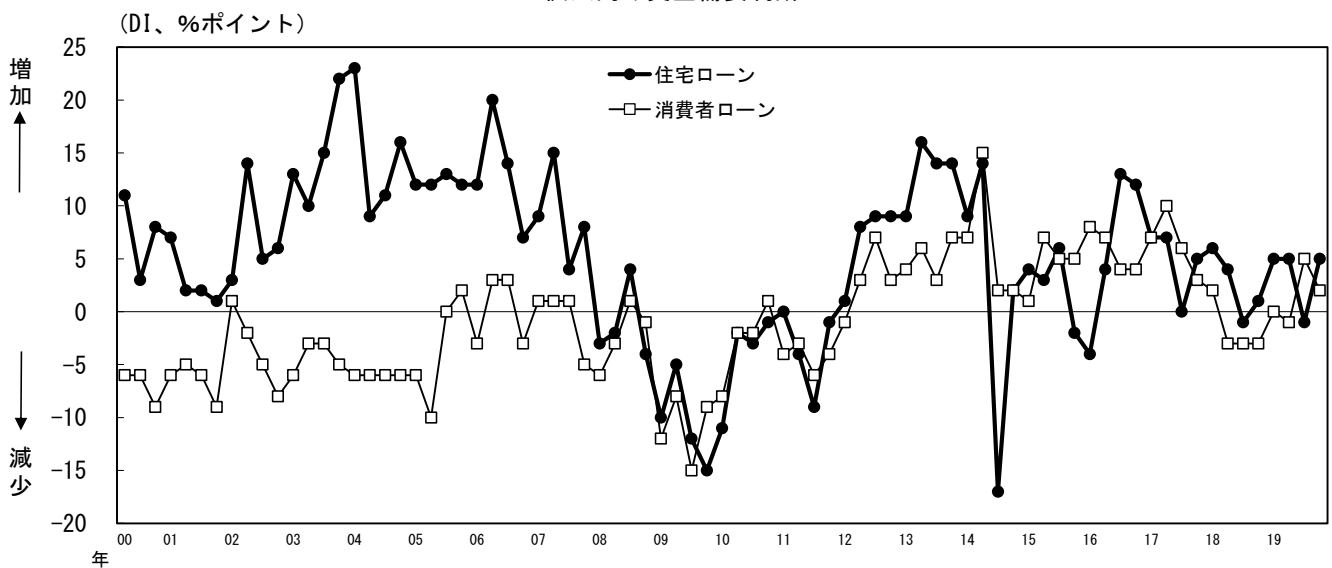
4. 「個人向け」のうち、住宅ローン、消費者ローンの資金需要の変化。

	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
住宅ローン	5	-1
消費者ローン	2	5

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
1	5	42	2	0	50
2%	10%	84%	4%	0%	
1	3	44	1	1	50
2%	6%	88%	2%	2%	

* 資金需要判断D. I. の算出方法は、質問1.の*印を参照。

個人向け資金需要判断



5. a. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「増加」あるいは「やや増加」とした場合、資金需要が増加した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の拡大	1.83	1.00
②個人消費の拡大	1.50	1.25
③個人所得の減少	1.00	1.00
④貸出金利の低下	1.50	1.50
⑤その他	1.67	1.75
回答数	6	4

* 平均値の算出方法は、質問3. a. の * 印を参照。

5. b. 質問4.において、資金需要の変化に対する回答を「やや減少」あるいは「減少」とした場合、資金需要が減少した要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	住宅ローン	消費者ローン
	平均値	平均値
①住宅投資の減少	2.00	1.00
②個人消費の減少	1.00	1.50
③個人所得の増加	1.00	1.00
④貸出金利の上昇	1.00	1.00
⑤その他	2.00	1.50
回答数	2	2

6. 今後3ヶ月間において、「企業向け」、「地公体等向け」、「個人向け」の資金需要がどのように変化するとの見通しを持っているか。

	資金需要判断 D. I. (%ポイント)	(前回)
企業向け	-1	0
地公体等向け	1	0
個人向け	-3	2

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
増加	やや増加	横這い	やや減少	減少	
0	1	47	2	0	50
0%	2%	94%	4%	0%	
0	1	49	0	0	50
0%	2%	98%	0%	0%	
0	1	45	4	0	50
0%	2%	90%	8%	0%	

* 資金需要判断D. I. の算出方法は、質問1. の * 印を参照。

Ⅱ. 貸出運営スタンス、利鞘設定の変化（質問7.～13.）

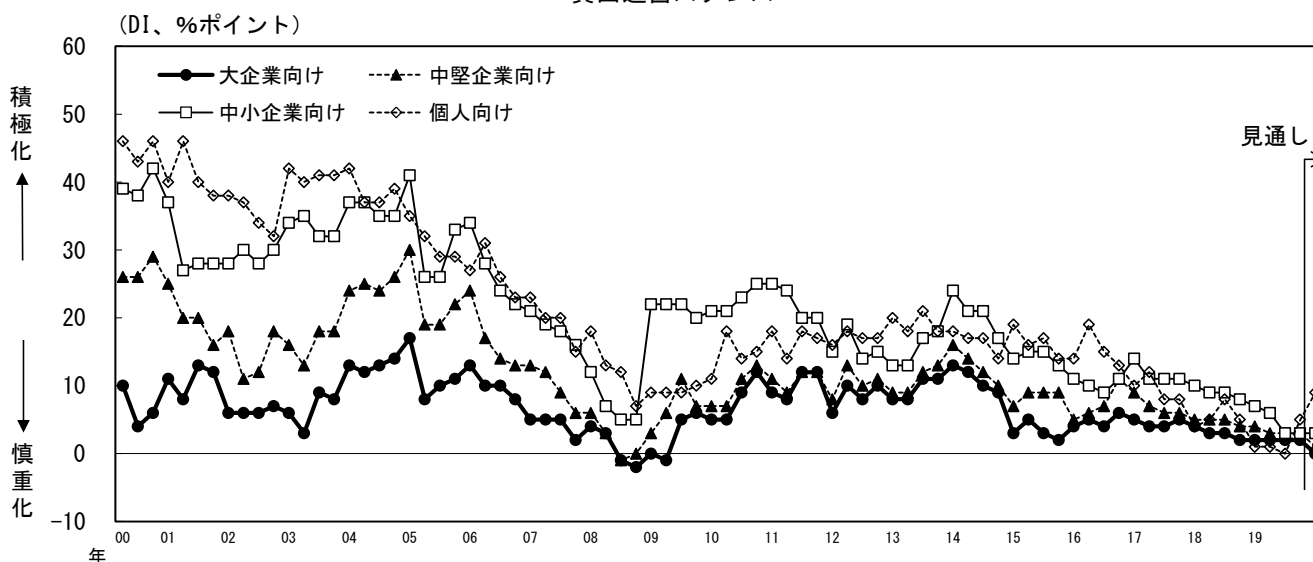
7. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させたか。

	貸出運営スタンス D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	2	2
中堅企業向け	3	3
中小企業向け	3	3
個人向け	5	0

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
1	0	48	0	0	49
2%	0%	98%	0%	0%	
1	1	48	0	0	50
2%	2%	96%	0%	0%	
1	1	48	0	0	50
2%	2%	96%	0%	0%	
2	2	45	1	0	50
4%	4%	90%	2%	0%	

* 貸出運営スタンスD. I. = (「積極化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや積極化」とした回答金融機関構成比) - (「慎重化」とした回答金融機関構成比+0.5×「やや慎重化」とした回答金融機関構成比)。以下、質問11.において同じ。

貸出運営スタンス



*見通しは、質問11.を参照。

8. a. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「積極化」あるいは「やや積極化」とした場合、積極化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自行の資産内容の好転	1.00	1.00	1.00
② 経済見通しの好転	1.00	1.00	1.00
③ 特定業種・企業の業績(業績)好転	1.00	1.00	1.00
④ 他行との競合激化	3.00	2.50	2.50
⑤ 他業態との競合激化	3.00	2.00	2.00
⑥ 直接市場調達との競合激化	1.00	1.00	1.00
⑦ ALM上のリスク許容度の上昇	1.00	1.00	1.00
⑧ 成長分野への取り組み強化	3.00	2.50	2.50
⑨ その他	1.00	1.50	1.50
回答数	1	2	2

* 平均値の算出方法は、質問3. a. の * 印を参照。

8. b. 質問7.において、企業向け（規模別）の貸出運営スタンスの変化に対する回答を「やや慎重化」あるいは「慎重化」とした場合、慎重化させた要因は何か。

<判断スケール> 重要 <3> やや重要 <2> 重要でない <1>

	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
	平均値	平均値	平均値
① 自行の資産内容の悪化	n. a.	n. a.	n. a.
② 経済見通しの悪化	n. a.	n. a.	n. a.
③ 特定業種・企業の業績(業績)悪化	n. a.	n. a.	n. a.
④ 他行との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑤ 他業態との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑥ 直接市場調達との競合緩和	n. a.	n. a.	n. a.
⑦ ALM上のリスク許容度の低下	n. a.	n. a.	n. a.
⑧ その他	n. a.	n. a.	n. a.
回答数	0	0	0

9. 過去3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させたか。

	貸出条件設定D. I. (%*イント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
① 信用枠（拡大＝緩和）	0	0	0
② 利鞘設定（縮小＝緩和）	-1	-1	-1
③ 借り手の信用リスク評価	-1	-2	-2
④ 担保設定	0	0	0
回答数	49	50	50

* 貸出条件設定D. I. = (「緩和」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや緩和」とした回答金融機関構成比) - (「厳格化」とした回答金融機関構成比 + 0.5 × 「やや厳格化」とした回答金融機関構成比)。以下、質問12.において同じ。

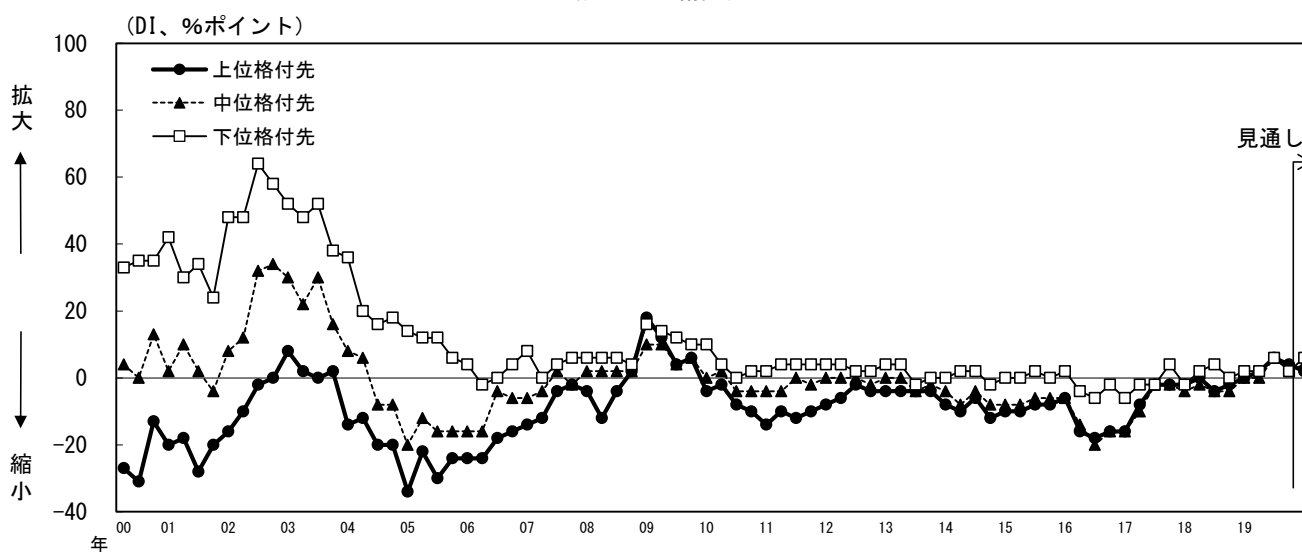
10. 過去3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させたか。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)
上位格付先	4	6
中位格付先	2	6
下位格付先	2	6

回答金融機関数（下段は構成比）			合計
拡大	横這い	縮小	
2	47	0	49
4%	96%	0%	
1	48	0	49
2%	98%	0%	
1	48	0	49
2%	98%	0%	

* 利鞘設定D. I. = 「拡大」とした回答金融機関構成比 - 「縮小」とした回答金融機関構成比。以下、質問13.において同じ。

格付別利鞘設定



11. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」、「個人向け」の貸出運営スタンスをどのように変化させる方針か。

	貸出運営スタンス D. I. (%ポイント)	(前回)
大企業向け	0	2
中堅企業向け	1	3
中小企業向け	3	5
個人向け	9	8

回答金融機関数（下段は構成比）					合計
積極化	やや積極化	ほぼ不変	やや慎重化	慎重化	
1	0	46	2	0	49
2%	0%	94%	4%	0%	
1	1	46	2	0	50
2%	2%	92%	4%	0%	
1	3	44	2	0	50
2%	6%	88%	4%	0%	
3	3	44	0	0	50
6%	6%	88%	0%	0%	

* 貸出運営スタンスD. I. の算出方法は、質問7.の*印を参照。

12. 今後3ヶ月間において、「企業向け（規模別）」について、以下に掲げる貸出条件をどのように変化させる方針か。

	貸出条件設定D. I. (%ポイント)		
	大企業向け	中堅企業向け	中小企業向け
①信用枠（拡大＝緩和）	0	0	0
②利鞘設定（縮小＝緩和）	-2	-2	-3
③借り手の信用リスク評価	-1	-2	-2
④担保設定	0	0	0
回答数	49	50	50

* 貸出条件設定D. I. の算出方法は、質問9. の*印を参照。

13. 今後3ヶ月間において、「企業向け」のうち、格付別（上位・中位・下位）にみた利鞘設定をどのように変化させる方針か。

	利鞘設定 D. I. (%ポイント)	(前回)	回答金融機関数（下段は構成比）			合計
			拡大	横這い	縮小	
上位格付先	2	2	1 2%	48 98%	0 0%	49
中位格付先	4	2	2 4%	47 96%	0 0%	
下位格付先	6	4	3 6%	46 94%	0 0%	49

* 利鞘設定D. I. の算出方法は、質問10. の*印を参照。

注)

- 本調査は、日本銀行と取引のある国内銀行（一部先を除く）および信用金庫のうち、貸出残高（2016年度期中平残）の上位50先の協力を得て実施。国内銀行および信用金庫の貸出残高全体（2018年度期中平残）に占める調査対象50先の貸出シェアは75%。
- 「個人」には、個人企業は含まない。
- 「地公体等向け」は、公務としての都道府県、市町村のほか、それぞれの直営事業（交通、水道、電気、ガス、病院等）を含む。
- 企業規模別の分類は、以下のとおり。
 - 「大企業」：資本金10億円以上、かつ常用従業員300人（「卸売業」、「サービス業」は100人、「小売業」、「飲食店」は50人）超の法人。
 - 「中小企業」：資本金3億円以下または常用従業員300人以下（卸売業は資本金1億円以下または常用従業員100人以下、小売業、飲食店、サービス業は資本金5,000万円以下または常用従業員50人以下〈サービス業は100人以下〉）の法人および個人企業。
 - 「中堅企業」：大企業、中小企業以外の法人。
- 「上位格付」、「中位格付」、「下位格付」については、各行の内部格付に則して、各行の判断・分類で回答。目安としては、国内長期債格付AAA～BBB＝上位格付、BB～B＝中位格付、CCC以下＝下位格付。

以 上

照会先：金融機構局 金融データ課 預貸金統計グループ TEL：03-3277-1581